

## 完了報告：事業内容、事業の成果に関する写真

### 1：住民参加型河川流域管理を通じた減災活動



先行期で設定した、コミュニティ内での河川流域管理に関する条例に関し、どのようにその施行を確実にしていくか、村の災害対策委員会としての役割や準郡との連携等を話し合った。（カバカ村・2017年4月6日）



雨で川が増水し氾濫することを懸念し、村の災害対策委員会の呼びかけで、村の住民らが川床に溜まった砂や泥、また河流の妨げになっている流木等を除去しているところ。（カブケロ・ウェスト村・2017年8月29日）



工事開始前のコミュニティでの会議。準郡長（LC3）から、準郡内に複数ある災害危険箇所の中で、どのように工事箇所を選んだか、またこれからの工事計画の概要等の説明がなされた。（カルサンダラ準郡・2017年5月18日）



橋脚の土台部分の掘削作業の様子。以前かかっていた橋は洪水で流れ、その後写真奥の板橋を渡したが、増水時には渡れなくなり、また橋幅が狭いため車両も通れない。（カバロディ村・2017年8月21日）



橋の仕上げ工事の様子。この橋によりカバロディ村とカブガ村の子どもたちの、近辺で唯一の学校であるカナンバ小学校へのアクセスが強化された。（カバロディ村・2018年2月2日）



護岸のための植林では、苗の植え方に加え、その後の発育を促すための適切な水やり方法や除草などについて合わせて研修を行った。（チベンゲニ村・2017年9月8日）



完了報告：事業内容、事業の成果に関する写真

2：生業手段の改善による災害/気候変動適応活動



収穫量や収穫から得た収入、その用途等の記録。このモデル農家グループのメンバーは、以前は自分の土地は沼地で耕作に適さないとはいわれていたが、研修で学んだ、沼地に適すサトウキビの耕作に取り組んでいる。（カバカ村・2017年12月4日）



学校菜園で育ったトウモロコシ。学校菜園の収穫物は適切な方法で乾燥させるなどの収穫後処理を行うことで、長期保存が可能となり、学校での給食にも活用されている。（カルサングラ村・2017年12月4日）



灌漑の利用農家に対する研修。灌漑により、天水に頼らず、乾季も農耕が可能となるが、灌漑の水をより効果的に活用できる作物や農法を紹介した。（カルサングラ準郡・2017年4月11日）



灌漑設備が導入された農地の様子（左上写真は、この土地から収穫されたスイカ）。（ニヤムバレ村・2017年8月2日）

3：地域防災機関の活動基盤強化



先行事業では委員会メンバーを準郡に集めて実施したが、本事業では持続性強化および村の他の住民の参加の促進を考慮し、各村にて定期会議を開催した。（チャンケレレ村・2017年5月3-10日）



村の災害対策委員会の年次振り返り会議では、学び合いや今後の連携を話し合うために、周辺地域の複数の村の災害対策委員会を集めて実施した。（カルサングラ準郡・2018年1月15日）



完了報告：事業内容、事業の成果に関する写真



防災クラブの年次振り返り会議の様子。クラブメンバーに加え PTA の代表者からも参加し、活動の振り返りおよび次年度の活動計画を話し合った（カルサングラ小学校・2017年11月28日）



県のコミュニティ開発担当行政官による、村の災害対策委員会に対する活動マネジメント能力強化研修の様子。（カルサングラ準郡・2017年4月11日）



県防災技術諮問委員会のメンバーによる防災管理計画のレビューの様子。（カセセ市内・2017年8月10日）



歌やダンス、寸劇などで、防災クラブで取り組んでいる活動を発表。子どもから発議された学校菜園を通じた給食提供については、県の行政官らが議案に署名し、この議案を県議会に共有することが確認された。（カルサングラ小学校・2017年8月22日）



護岸工事（アーチ橋の設置）の竣工を記し、国務大臣（災害援助・防災担当）、県関係者、そして日本大使館からの出席者らがテープカットを行った。（カバロディ村・2018年2月14日）



エンドライン調査に先駆け、データ収集・入力ボランティアに対し研修を実施。調査ツールの使い方や、データ収集時・入力時の注意事項等について説明し、調査のスケジュールの共有を行った。（2017年11月17日）